

分科会の名称 里山と水循環



委員名と役割分担

分科会代表 桑波田和子
分科会副代表 岡野武義
記録 桑波田 和子
実行委員 高橋晴雄、荒尾繁志、吉田正彦

タイムテーブル

10:50~11:00 主旨説明・自己紹介
事例発表
11:00~11:30 「勝浦市大森の里山から」 岡野竹義 氏(みどりのボランティア)
11:30~12:00 「印旛沼の水環境改善について」吉田正彦 氏(千葉県県土整備部河川計画課)
12:00~13:00 昼食・交流
13:00~13:30 「水田を活用した水質浄化モデル事業調査から」石原正規 氏(我孫子市役所)
13:30~14:40
ワークショップ(全員参加) (湧水保全・河川・水質浄化の3グループ編成)

出席者数 25名

基調講演等の内容

(1) 勝浦市大森の里山から 岡野 竹義氏 (みどりのボランティア)

千葉市に住んでいて、勝浦市の大森に里山を持っている方の里山の現状をお話いただきました。大森は南総の里山で、奥山型である。谷津頭からしみだした水は、田んぼを潤し分水嶺のため大多喜の方に流れやがて夷隅川となり太平洋に流れ出る。谷津頭には産廃が埋められ、里山は手入れがなされず雨が降ると、一気に川に流れ川底を削り土砂や木で沼は埋まっている。

また地域的に猪や鹿が出没し田んぼには柵が張り巡らされ、この柵の維持も大変である。年々田んぼが耕作されなくなっている。里山の手入れをやめると産廃の捨て場になり水が汚れ、保水性も失う。里山を産廃被害から守るためには地元の人たちが自覚しないと難しいし、行政を動かすにしてもまずは地元の人々の理解と団結が必要となる。

(2) 印旛沼の水環境改善について 吉田 正彦氏(千葉県県土整備部河川計画課)

「恵む豊かな印旛沼の再生に向けて」という、印旛沼流域水循環健全化緊急行動計画の概要をお話いただいた。「恵みの沼」の復活は、長期間の努力が必要である。そのために30年後(2030年)を「恵みの沼」の再生の目標年次として設定し、「印旛沼方式」の考えを取り入れた「印旛沼流域水循環健全化計画(長期構想)」を策定した。

住民と行政が一体となって、2010年を目安に早期に実現可能な取り組みと役割分担を明確にした、「緊急行動計画」を策定し取り組みの内容の説明がなされた。

水清く、自然の恵みにあふれ、穏やかで豊かな印旛沼を再生するために、流域の皆さんの役割を確認し、共同して取り組みが必要である。

(3.) 「水田を活用した水質浄化モデル事業調査から」 石原 正規氏 (我孫子市役所)

「水田を活用した水質浄化モデル事業調査のまとめ」から手賀沼干拓地の我孫子市の3箇所の水田で、それぞれ施肥量を変え通常の水稲耕作を3年間にかけ行い、土壌、水質や水質汚濁物質の負荷量の変化、収穫量の違いなど調査の報告をお聞きしました。

調査結果から、実現可能な手賀沼にやさしい水田耕作方法は、節水型水管理による慣行施肥半量と考えられる。この耕作方法を広げる環境保全型農業政策の確立を図っていくとのことでした。また水田による水質汚濁負荷削減効果の試算(リン削減量を例にして)を、河川浄化施設と比較すると、水田は水質浄化のための経済効果があることが試算できたとの報告がなされました。

討論会等の内容

湧水保全・河川・水質浄化の3グループによるワークショップの予定だったが、人数の関係もあり、全員で午前の事例発表を基に、フリートークで、私たちに出来ることは何かを考えてみました。

- * 個人個人が水というものを通して、自分の周りを良く見る・知る必要がある。
- * 水の循環という意味で流域のもつ役割分担があることを理解する。
(市民が汚した水は市民が浄化する)
- * 子供たちが自由に遊べる水辺を作り、親子あるいは専門家を交えて、水・自然環境など一緒に考える仕組みを作りたい。また子供に考える力を持たせたい。
- * 生活様式の改善に伴う水環境・自然環境などに対する意識に、上流と下流で温度差が生じている、これを調整する仕組みづくりが必要。
- * 豊かな自然を残していくということで住民の一人一人が行動することが大切。
- * 里山のもつ保水機能等のために、里山の活性化が必要である。活性化することで里山に人の手がいり、そこで生活できる基盤が出来上がる。

分科会の課題

水循環は単独では解決しない。他の分科会(稲作・水、文化・伝統、生物・ビオトープ、残土・産廃、政策等)との連帯も必要と思う。さらに安全でおいしい水を飲みたいという願望は皆がもっている。

利根川水系・手賀沼・印旛沼の水がめを利用してわれわれは、自然の豊かな里山が活性化するために何か行動を起こす必要がある。そのために里山で出来たおいしいお米を買ってください！